

2024年度

環境経営レポート

(2024年8月～2025年7月)



2025年8月20日

〈 目 次 〉

1. 組織の概要	P1
2. 認証・登録の対象範囲	P4
3. 環境経営方針	P4
4. 環境経営目標	P5
5. 環境経営計画	P6
6. 実施体制	P7
7. 環境経営目標の実績とその評価	P8
8. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価	P9
9. 環境経営活動の取組結果に対する評価・次年度の取組について	P10
10. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	P12
11. 代表者による全体の評価と見直し・指示	P12
12. 受託した廃棄物処理量	P13
13. 当社の環境への取り組み	P14

1. 組織の概要

I. 事業所名および代表者氏名

有限会社 アバクリーン 代表取締役 牧野 保博

II. 所在地

本社 〒840-0857 佐賀県佐賀市鍋島町大字八戸1624番地5

TEL(0952)25-0339 FAX(0952)25-0397

佐賀営業所 〒840-0864 佐賀県佐賀市嘉瀬町大字荻野字一本松籠2221番地8

TEL(0952)33-6125

伊万里営業所 〒848-0026 佐賀県伊万里市大川内町丙1805番地

TEL(0955)22-5922

III. 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 山田義光

事務局 北村保雄

連絡先 TEL(0952)25-0339 FAX(0952)25-0397

E-mail abaclean@po.bunbun.ne.jp

IV. 事業活動の概要(対象活動)

① 事業系一般廃棄物収集運搬業

(佐賀市、伊万里市、小城市、神崎市、吉野ヶ里町)

② 産業廃棄物収集運搬業

③ 特別管理産業廃棄物収集運搬業 (医療系廃棄物等)

V. 事業規模

(1) 受託処理量 2,821t (2024年度)

(2) 従業員数 10名

(3) 事業所延べ床面積 299m²

VI. 設立年月日 1992年 4月20日

VII. 資本金 300万円

VIII. 売上高 18,989万円 (2024年度)

IX. 事業年度 8月～翌年7月

X. 処理料金 個別見積り

X I . 許可内容

《一般廃棄物処理業許可一覧》

市町村	積替 保管 有無	許可の年月日 及び有効年月日	許可番号及び 文書番号	処理業 の区分	取扱廃棄物 の種類
佐賀市	○	令和6年4月1日 令和8年3月31日	第1022号 (許可番号)	収集 運搬	事業系 一般廃棄物 (ごみ)
小城市	○	令和7年3月1日 令和9年2月28日	小城市指令6 小環廃第9号 (許可番号)	収集 運搬	可燃ごみ・ 不燃ごみ
神埼市	○	令和7年4月1日 令和9年3月31日	神埼市7第12号 (許可番号)	収集 運搬	事業系 一般廃棄物 (ごみ)
吉野ヶ里町	○	令和7年4月1日 令和9年3月31日	吉住環一第7-6号 (許可番号)	収集 運搬	事業系 一般廃棄物 (ごみ)
伊万里市	○	令和6年4月1日 令和8年3月31日	伊万里市指令環 第25号 (文書番号)	収集 運搬	事業系 一般廃棄物 (ごみ)

《産業廃棄物許可》

産業廃棄物収集運搬業				許可項目																		
都道府県及び政令都市	替 保 管		許可の年月日及び有効年月日	許可番号	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残渣	ゴムくず	金属くず	コンクリートくず	ガラスくず・陶磁器くず	鋳さい	がれき類	ばいじん	水銀使用製品産業廃棄物
	有	無																				
佐賀県(優良)	●	○	令和7年2月25日 令和14年2月24日	04101002112	○	○	○	○	○	●	○	○	●	○	○	●	●		○	○	○	●
福岡県(優良)		○	令和7年2月12日 令和14年2月11日	04000002112	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○

《特別管理産業廃棄物許可》

産業廃棄物収集運搬業				許可項目				
都道府県及 び政令都市	積替 保管 有無	許可の年月日及び 有効年月日	許可番号	感 染 性 産 業 廃	汚 泥	廃 油	廃 酸	廃 アル カリ
佐賀県(優良)	●○	令和3年2月16日 令和10年2月15日	04151002 112	●	○	○	○	○
福岡県(優良)	○	平成31年1月6日 令和8年1月5日	04050002 112	○	○	○	○	○

X II. 積替保管場所の内容

積替保管施設の所在地及び面積、許可の条件

《産業廃棄物許可》

所在地	佐賀県佐賀市嘉瀬町大字荻野字一本松籠2221番地8			
産業廃棄物の種類	面積	保管上限	保管高さ	備考
廃プラスチック類	10㎡	18㎡	2.0m	屋内(フレコンバック)
繊維くず	5.1㎡	6.0㎡	2.0m	屋内(フレコンバック)
金属くず	3.0㎡	1.0㎡	0.83m	屋内(ドラム管)
ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず	3.0㎡	6.0㎡	2.0m	屋内(フレコンバック)
水銀使用製品産業廃棄物	5.1㎡	2.0㎡	0.83m	屋内(ドラム管)

《特別管理産業廃棄物許可》

所在地	佐賀県佐賀市嘉瀬町大字荻野字一本松籠2221番地8			
特別管理産業廃棄物	面積	保管上限	保管高さ	備考
感染性産業廃棄物	12㎡	25㎡	2.1m	室内(冷蔵庫)

X III. 施設等の状況

《運搬車両》

車種	台数	配備状況
パッカー車 (5トン)	1台	佐賀
パッカー車 (4トン)	1台	佐賀
パッカー車 (3.5トン)	2台	佐賀1台 伊万里1台
パッカー車 (3トン)	4台	佐賀3台 伊万里1台
保冷バン (3トン)	2台	佐賀
幌付き平ボデー車 (2トン)	1台	伊万里
貨物バン (2トン)	1台	佐賀
パワーゲート車 (2トン)	1台	佐賀
軽貨物バン (0.35トン)	1台	佐賀
ダンプ車 (3トン)	2台	佐賀1台 伊万里1台
乗用車 (ハイブリット車)	4台	佐賀

2. 認証・登録の対象範囲（当社は全組織・全活動を対象としています。）

対象事業所： 有限会社アバクリーン 本社、佐賀営業所、伊万里営業所

対象事業活動： 一般廃棄物収集運搬業、産業廃棄物収集運搬業、
特別管理産業廃棄物収集運搬業（医療系廃棄物等）

3. 環境経営方針

環 境 理 念

有限会社 アバクリーンは、廃棄物の収集運搬業を通して、地球と地域の環境保全並びに循環型社会の構築に貢献します。また、積極的に環境経営システムを取り入れ環境負荷の低減に努めます。

環 境 経 営 方 針

1. 環境への取組として、特に次の事項に注力します。

- ① 収集・運搬車両のエコドライブを実践し、二酸化炭素の削減に取り組めます。
- ② 事業所での電気使用量の節約により、二酸化炭素の削減に取り組めます。
- ③ 水使用量の削減に取り組めます。
- ④ 事業所での廃棄物の削減とリサイクル化に取り組めます。
- ⑤ 排出事業所への情報提供や分別の指導に取り組めます。
- ⑥ グリーン購入の積極的推進に取り組めます。

2. 地域清掃等の社会貢献活動を積極的に行います。

3. 環境に関する法律・規則・協定を遵守します。

4. 環境経営システムの内容を全社員に周知徹底し、環境に対する意識の向上に努めながら環境経営の継続的改善に取り組んでいきます。

制定日 平成23年10月25日

改訂日 2019年8月1日

有限会社 アバクリーン

代表取締役 牧野 保博

4 環境経営目標

* 基準年度は2023年度(基準処理量: 2,927t)及び1,上段は二酸化炭素排出量、
下段は、(排出量/処理量)とします。 【各年度は毎年8月～翌年7月】

環境経営目標		単位	2023年度 (基準年度)	2024年度	2025年度	2026年度
1	全社二酸化炭素 排出量の削減		—	基準年比1%削減	基準年比2%削減	基準年比3%削減
		kg-CO ₂	83,950.4	83,110.9	82,271.4	81,431.9
		kg-CO ₂ /t	28.7	28.4	28.1	27.8
1の1	電気使用量 の削減			基準年比1%削減	基準年比2%削減	基準年比3%削減
		使用量;kWh	8,157.6	8,076.0	7,994.4	7,912.9
1の2	ガソリン使用量の 削減		—	基準年比1%削減	基準年比2%削減	基準年比3%削減
		使用量;L	1,405.8	1,391.7	1,377.7	1,363.6
1の3	軽油使用量 の削減		—	基準年比1%削減	基準年比2%削減	基準年比3%削減
		使用量;L	29,799.0	29,501	29,203	28,905
		原単位	10.2	10.1	10.0	9.9
2の1	軽油使用 の燃費向上		走行距離/燃料使用 量—	基準年比1%向上	基準年比2%向上	基準年比3%向上
		km/L	5.66	5.72	5.77	5.83
2の2	ガソリン使用 の燃費向上		走行距離/燃料使用 量—	基準年比1%向上	基準年比2%向上	基準年比3%向上
		km/L	10.85	10.96	11.07	11.18
3	一般廃棄物 の削減	t	—	基準年比1%削減	基準年比2%削減	基準年比3%削減
			0.546	0.541	0.535	0.530
4	水使用量 の削減		—	基準年比1%削減	基準年比2%削減	基準年比3%削減
		m ³	93.50	92.57	91.63	90.70
5	グリーン購入 の推進	品目	12品目	12品目維持	12品目維持	12品目維持
6	排出事業者への 情報提供(生ゴミ の水切りの周知 徹底)	件	60件	60件以上	60件以上	60件以上
7	地域の環境整備 {地域清掃等の 社会貢献活動}	回	12回	12回以上	12回以上	12回以上

※削減率及び改善率は2023年度実績値に対する割合を示す

※電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2022年度調整後排出係数0.462kg-CO₂/kWhを使用

※当社は化学物質の使用はありません。

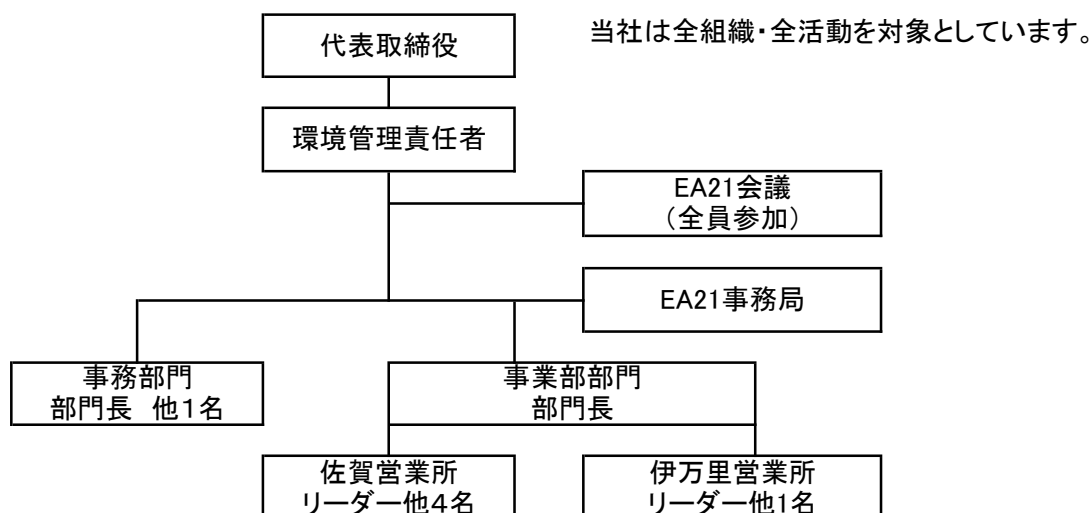
※当社は産業廃棄物発生は殆どなく、目標設定せず削減に努めます。

5. 環境経営計画（2024年度）

環境経営目標とその取組項目			環境経営目標の達成の手段	責任部署
1	電気使用量の1%削減		エアコンの設定温度を決め、実行する	全社
			照明器具の定期的な清掃・交換	
			空調機のフィルターの定期的な清掃(夏場は1回/月)	
			不用電力の消費抑制(不在時・不在箇所は電気を切る)	
			不用電力の抑制(昼休み時間は消灯する)	
	ガソリン・軽油使用量の1%削減		無駄の無い回収ルートの見直し	全社
			タイヤの空気圧の点検(1回/月)	
			回転板の空回しをしない	
			アイドリングストップの推進	
			車両の燃料使用量と走行距離のチェック	
	灯油使用量の1%削減		退社30分前の暖房停止	本社 佐賀
	LPG使用量1%削減		使用しない夏季は元栓を切る	佐賀
2 の 1	軽油使用の1%燃費向上		やさしいアクセル操作を心掛ける (急発進・急加速を避ける)	佐賀 伊万里
2 の 2	ガソリン使用の1%燃費向上		やさしいアクセル操作を心掛ける (急発進・急加速を避ける)	本社 佐賀
3	一般廃棄物の1%削減		当社で発生するコピー用紙の裏表使用の徹底	全社
			出来る限りの可燃物を減らしリサイクル化	全社
4	水使用量の削減		洗車時の水の出しっぱなしをしない	全社
			トイレの雨水利用	全社
			節水活動の推進(節水表示を行う)	全社
5	グリーン購入の推進 (12品目以上)		事務用品の購入時エコマーク商品の優先購入	全社
			再生紙の購入推進	全社
			環境配慮型車両の購入推進	本社
6	排出事業者への情報提供 [生ゴミの水切りの周知徹底] (60件以上)		排出事業者への分別表作成、配布を行い、実行の手伝いを行う	佐賀 伊万里
7	地域の環境整備 【地域清掃等の社会貢献活動】 (12回以上)		地域清掃等の社会貢献活動を積極的に行う	全社

6. 実施体制(対象組織)

有限会社 アバクリーン エコアクション21 実施体制



職 名	役割・責任・権限
代表取締役社長	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者として環境経営全般について責任と権限をもつ ・環境経営方針を作成し・見直し、従業員に周知する。 ・環境管理責任者、EA21事務局員を任命する。 ・環境への取組を実施するための資源(人、物、金、情報)を準備する。 ・EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境実績を向上させる。 ・環境経営目標、環境経営計画を作成する。 ・3ヶ月に1回、環境経営目標の達成状況及び環境活動計画の実行状況を確認する ・上記の結果を代表者に報告する。 ・環境経営方針以外の環境文書の制改定責任者
EA21会議	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月に1回、会議を開き環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実行状況報告・討議を行う。
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者を補佐し、EA21文書及び記録類、及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う ・社外からの環境情報の収集と伝達を行う ・環境記録の廃棄
事業部 事務部	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針、自部門の環境経営目標、環境経営計画を部門全員に周知する ・環境目標達成のため、責任を持って自部門の環境活動を推進する ・自部門で発生した問題点の是定処置、予防処置を実施する ・自部門に関連する法規制等を順守する ・自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する ・自部門の教育・訓練を実施する
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

※環境記録の保存期間は、5年とする。

7. 環境経営目標の実績とその評価

* 基準年度は2023年度(基準処理量:2,927t)とします。1及び1の1～5の上段は二酸化炭素排出量、下段は、(排出量/処理量)とします。

(年度は8月～翌年7月とします。)

環境経営目標	単位	2023年度 (基準年度)	2024年度		達成 率%	評価
			目標	実績		
				処理量 2,821t		
1 全社二酸化 炭素排出量 の削減		-	基準年比1%削減			△
	kg-CO ₂	83,950	83,110.9	86,325.79	96.3%	
	kg-CO ₂ /t	28.7	28.4	30.60	92.8%	
1 の 1 電気使用量 の削減	使用量:kWh	8,157.6	8,076.0	10,160.0	79.5%	×
1 の 2 ガソリン使用 量の削減	使用量 L	1,405.8	1,391.7	1,580.0	88.1%	×
1 の 3 軽油使用量 の削減	使用量: L	29,799.0	29,501	30,200.0	97.7%	△
	原単位	10.2	10.1			
2 の 1 軽油使用の 燃費向上		(走行距離/燃料使 用量)	基準年比1%向上			△
			走行距離 km	168,916		
	燃費: km/L	5.66	5.72	5.59	97.7%	
2 の 2 ガソリン使用 の燃費向上		(走行距離/燃料使 用量)	基準年比1%向上			○
	燃費: km/L	10.85	10.96	10.85	99.0%	

環境経営目標	単位	2023年度 (基準年度)	2024年度		達成 率%	評価
			目標	実績		
3 一般廃棄 物の削減	t	-	基準年比1%削減			○
		0.546	0.541	0.541	100.0%	
4 水使用量 の削減	m ³	-	基準年比1%削減			×
		93.5	92.57	113.00	81.9%	
5 グリーン購 入の推進	品目	12	12品目維持	12品目		○
6 排出事業者への情報提供 [生ゴミの水切りの周知徹底]		60件	60件以上	60		○
7 地域の環境整備 {地域 清掃等の社会貢献活動}		12回	12回以上	3回		×

※電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2016年度調整後排出係数 0.483kg-CO₂/kWhを使用

※削減率及び改善率は2020年度実績値に対する割合を示す

削減率＝目標値／実績値

改善率＝実績値／目標値

評価は処理量合計を原単位とする項目で評価する。但し、灯油、LPGは使用量とする。

達成率:98%以上、○ 98%未満～95%以上 △ 95%未満 ×

8. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価

環境経営目標とその取組項目			目標の達成の手段	取組評価
1	二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	エアコンの設定温度を決め、実行する	△
			照明器具の定期的な清掃・交換	○
			空調機のフィルターの定期的な清掃(夏場は1回/月)	○
			不用電力の消費抑制(不在時・不在箇所は電気を切る)	○
			不用電力の抑制(昼休み時間は消灯する)	△
		ガソリン・軽油使用量の削減	無駄の無い回収ルートの見直し	△
			タイヤの空気圧の点検(1回/月)	○
			回転板の空回しをしない	○
			アイドリングストップの推進	○
			車両の燃料使用量と走行距離のチェック	○
		灯油使用量の削減	退社30分前の暖房停止	○
		LPG使用量削減	使用しない夏季は元栓を切る	△
2 の 1	軽油使用の燃費向上		やさしいアクセル操作を心掛ける (急発進・急加速を避ける)	○
2 の 2	ガソリン使用の燃費向上		やさしいアクセル操作を心掛ける (急発進・急加速を避ける)	△
3	一般廃棄物の削減		当社で発生するコピー用紙の裏表使用の徹底	○
			出来る限りの可燃物を減らしリサイクル化	○
4	水使用量の削減		洗車時の水の出しっぱなしをしない	△
			トイレの雨水利用	×
			節水活動の推進(節水表示を行う)	○
5	グリーン購入の推進		事務用品の購入時エコマーク商品の優先購入	○
			再生紙の購入推進	○
			環境配慮型車両の購入推進	○
6	排出事業者への情報提供 (生ゴミの水切りの周知徹底)		排出事業者へのちらし作成、配布を行い、周知徹底を行う	○
7	地域の環境整備 【地域清掃等の社会貢献活動】		地域清掃等の社会貢献活動を積極的に行う	×

9. 環境経営活動の取組結果に対する評価・次年度の取組について

目標：二酸化炭素排出量 基準年度比1%削減

《取組結果に対する評価》

目標値に対し少し増加で目標未達成、4月からの新規の得意先の微量の増加はあったが、遠方の産業廃棄物の中間処理施設への運搬業務の頻度が前年度に比べ増加した為軽油の使用量も増加した事が要因と考えられる。

《次年度への取組の指針》

遠方の産業廃棄物の中間処理施設へ運搬に行く際はエコドライブを更に心掛ける。

目標：軽油使用の燃費向上 基準年度比1%向上

《取組結果に対する評価》

目標値に対して僅か届かず目標未達成。収集先の増減等はあるが、収集ルートや収集回数等の見直しを定期的に行ったが、結果的に燃費の向上につながらなかった。

《次年度への取組の指針》

収集ルートや収集回数等の見直しを引き続き継続して定期的に行い、アイドリングストップや塵芥車の場合回転板の空回しをしない等心掛ける。

目標：ガソリン使用の燃費向上 基準年度比1%向上

《取組結果に対する評価》

目標値に対して届かず目標未達成。新規営業獲得の為、営業車のガソリン使用量が増えたことが要因と考えられる。

《次年度への取組の指針》

営業活動が最短ルートになるよう移動ルートを事前に検討する。

目標：一般廃棄物の削減 基準年度比1%削減

《取組結果に対する評価》

目標値に近い削減率で目標達成。一般廃棄物の削減が達成出来たのは缶やビン入りの飲料の購入を控えた事や昨年度に引き続きコピー用紙の裏紙使用と古紙問屋への紙類のリサイクルの推進の結果と考えられる。

《次年度への取組の指針》

上記の活動は効果のあるものとして、継続して削減活動を進めていく。

目標：水使用量の削減 基準年比1%削減

《取組結果に対する評価》

18%増で目標未達成。目標が達成出来なかったのは、パッカー車や保冷車等の収集車両は汚れた状態で得意先等へ収集に行くと悪い印象を与えかねない為、最低でも週1回は洗車をするように会社からも指示をされている為に外観はもちろんタイヤ回り等の下回りもきれいにしておき、良い印象を持ってもらえるように心掛けた為、水の使用量が増えた事が要因と考えられる。

《次年度への取組の指針》

車両の洗車や清掃等に水の出しっ放しを無くす為、蛇口に節水表示をして意識を促す。

目標：グリーン購入の推進 12品目以上

《取組結果に対する評価》

合計12品目で目標達成。再生紙(コピー用紙、トイレトペーパー)、ティッシュペーパーノートで目標は達成した。

《次年度への取組の指針》

常時必要な品目は、継続できるように維持努力して、さらに環境配慮製品の購入が進むように努力する。
次年度は環境配慮型車両の導入を検討する。

目標：排出事業者への情報提供(生ゴミの水切りの周知徹底) 60件以上

《取組結果に対する評価》

合計60件。目標達成。

《次年度への取組の指針》

目標は達成出来たので、次年度も引き続き推進する。

目標：地域の環境整備[地域清掃等の社会貢献活動] 12回以上

《取組結果に対する評価》

目標未達成。昨年度に続き月1回以上の目標に対して、数回に渡り活動に取り組んだが、突発の臨時のゴミ収集や感染症法上は季節性インフルエンザ等と同じ扱いとなる第5類に引き下げられたが、未だに収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症による影響で、医療機関や介護施設等から感染症の患者等を取り扱った際に使用した防護服等の処理に感染性廃棄物としての収集依頼が殺到して収集運搬が追い付かない時期があった為、全体的に活動を行う事が難しかった事が出来なかった要因と考えられる。
目標達成する為には、次年度も月末に会議を開き、全体的に行っていた活動を佐賀と伊万里それぞれの事業所に分けて活動を行う日程を決め推進する。

10. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規などの違反や訴訟はありません。

また、過去3年間に関係当局からの違反等の指摘はありません。

当社における主要な環境法令は次のとおりです。

・廃棄物処理法(一般廃棄物収集・運搬業) 適合
・廃棄物処理法(産業廃棄物収集・運搬業) 適合
・廃棄物処理法(特別管理産業廃棄物処理業) 適合
・廃棄物処理法(管理票) 適合
・家電リサイクル法 適合
・小型家電リサイクル法 適合
・自動車リサイクル法、道路交通法 適合

11. 代表者による全体の評価と見直し・指示

2019年8月1日に環境経営方針を一部改訂し 2023年8月に新たに3年間の環境経営目標を設定して環境経営の取組の方向性を定め、2024年度は2025年7月まで1年間活動して来ました。その活動の結果を踏まえ、代表者による全体の見直しを2025年9月に行いました。

《環境経営システムが有効に機能しているか》

新たな3年間の環境経営目標の2年目の活動取り組みが過ぎました。

業務の体制も昨年以上に着実に確立してきた為、

現社員の理解により、有効に機能している方だと思いました。

《環境への取組の実施状況は適切か》

二酸化炭素の排出量は、遠方の産業廃棄物の中間処理施設への運搬の頻度が増加した為、軽油使用量も増加した事により達成出来なかった。電気使用量が目標量に対して大きく増加している。また、水使用量の増加も主に収集車両での業務を遂行する為に必要な使用の増加により達成出来なかった。そして、地域の環境整備に関しても、前記記載の理由の為目標達成出来なかった。

《環境経営方針、目標、経営計画、実施体制及びシステムの変更の必要性》

特に変更の必要はありません。

《総括》

2025年8月1日より代表取締役が変更になった。
環境に配慮することにより、エコアクションの意義を理解し経営に直結するということが分かってきた。
今後も会社全体でエコアクションの意義を認識することで、数値目標の設定や実行する為の方法を話し合い、環境的に社会貢献ができる会社づくりを目指す。

2025年 7月 31日

代表取締役 牧野 保博

12. 受託した廃棄物処理量

2024年度(2024年8月～2025年7月)

処理方法等		廃棄物等種類		処理方法等		処理量(t)	
収集運搬 産業廃棄物	廃プラスチック類					304.66	
	〃(紙オムツ)				0		
	〃(発泡スチロール)				0		
	ガラスくず等				2.10		
	金属くず				2.23		
	廃油				0		
	廃酸				0.11		
	廃アルカリ				0.12		
	ゴムくず				0		
	燃え殻				0		
	汚泥				0.46		
	紙くず				0		
	木くず				0		
	繊維くず				0		
	動植物性残さ				0		
	感染性廃棄物(特管)				255.08		
	廃油(特管)				0.42		
	廃酸(特管)				0		
	廃アルカリ(特管)				0		
	汚泥(特管)				0		
産業廃棄物収集運搬量合計						565.18	

13. 当社の環境への取り組み

佐賀営業所内の駐車場の周りに植樹



定期的な草刈りや剪定等

